

みつくら

令和 3年 11月15日 第350号
 発行 大瀬川活性化会議
 編集 「みつくら」編集委員会
 花巻市石鳥谷町大瀬川10-45-2
 大瀬川振興センター 電話45-6472

“お～い!集まろう!創ろう!みんなの大瀬川!”

くずまる大学が天台寺で研修

くずまる大学(菅原富男自治会長)の移動研修会は、11月2日に25名が参加して二戸市の天台寺を訪れた。一行は2班に分かれ、ボランティアガイドの案内で天台寺の由来や国の重要指定文化財である木造聖観音立像や木造十一面観音立像、本堂の仁王門、岩手県指定文化財の銅鑼口や木造伝多聞天立像など合わせて17体の立像を見学した。ガイドの説明によると、天台寺は奈良時代の神亀5年(728)に聖武天皇の勅願により僧・行基によって開山した寺で、戦後は草ボウボウの廃寺同然であったが浄法寺の地元民が復興に立ち上がり、特に中尊寺の今東光貫主が昭和51年に天台寺の住職を兼務し復興に尽くされたとのこと。今東光師は天台寺の住職となった翌年に亡くなるが、遺族は天台寺復興に役立てて下さいと1千万円を寄贈した。一方、作家の瀬戸内晴美は、昭和48年に中尊寺で今春聴(今東光)大僧正を師僧として得度し法名を寂聴とした。奇しくも今東光の没後10年目の昭和62年に瀬戸内寂聴師が天台寺の第73代住職を引き受けてからは、師の「青空説法」は一躍有名となり、全国から大勢の聴衆を集め、寺の復興に大きな貢献をはたしたとのこと。瀬戸内寂聴は平成18年に文化勲章を受章し、95歳まで法話を行った。現在99歳で京都に在住。

一斉草刈りの日当支払う

去る10月24日に葛丸の農村環境を守る会(板垣幸夫会長)では、今年度の自作耕地畦畔一斉草刈りと大排水路草刈りの日当支払を大瀬川振興センターで行った。これは、農地維持活動の中の草刈り作業で6月1日から7月31日までの61日間に行為、149名に総額約1,107万円が支払われた。

7回目の運動公園のライトアップ

今年も大瀬川運動公園の銀杏の紅葉に合わせ、ライトアップを10月27日から11月の中旬までの17時から21時で行っている。今回は銀杏を根元から見上げる広角のLED照

明を4機と新たに駐車場から狭角のLED照明1機を追加し西側からも良く見える様にしている

3年ぶりに歌碑前で賢治葛丸祭

石鳥谷賢治の会(玉山領一会長)は10月10日に第26回賢治葛丸祭を葛丸湖畔の歌碑前で35人が参加して行った。3年ぶりの歌碑前となったが、コロナ感染防止の為今年も会員と出演者のみで規模を縮小した。玉山会長は挨拶で「これからも葛丸祭を継続して多くの方々に賢治ファンになってほしい」と話した。続いて春日流八日市鹿子踊りが勇壮に舞い、久々に太鼓の音が山々に響いた。前回は無かった「賢治さんへの手紙」が復活。手紙は八幡小学校から2通と石鳥谷中学校・花北青雲高校から1通ずつ寄せられ会員の熊谷りりさんが代読した。内容は花巻を担う児童生徒達が賢治作品を新たな視点で良く理解しているものだった。その後は大谷コーラス・コスモスが賢治にちなんだ歌を3曲歌い、最後はコーラスの伴奏に合わせて全員で精神歌を斉唱した。閉会前の所感は賢治の歌碑の建立に最初から携わった小原正通さんが「久しぶりに歌碑の前で開催され、賢治さんも空の上からご覧になって喜んでと思います」と締めくくった。

今年最後の草刈りを行う

下大瀬川美土里の会(高橋義晃会長)では、去る10月30日にふれあい運動公園東側の土手と付随する好地堰の草刈り作業を24名の協力で行った。この場所は、草の中に切り株やU字溝などがあるため執行部が紅白のポールを刺して注意喚起した。また、土手の傾斜もキツいため、休憩をとりながら充分に間隔を開けて作業を行い、午前中で終了した。

男子バレーチーム5連覇達成!

去る、10月31日石鳥谷町体育館にて、第48回石鳥谷9人制バレーボール大会が開催された。開会式では関 公土会長(石鳥谷町体育協会)が「昨年コロナ感染拡大で開会式を行わなかったのが2年ぶりとなります。感染に十分注意し頑張ってください」と挨拶の後、昨年度優勝した我が大瀬川チームより、菅原崇将さんが選手宣誓を行った。今年は1ヶ月間に4回もの練習を積み重ねて本番に臨み、5連覇(今回で10回目)を成し遂げた。男子の参加は4チームで、初戦新堀チームに勝ち、決勝では好地チームと対戦。いずれの試合もデュースとなり緊張感ある接戦で、決勝戦はフルセットの末、1-9で負けている状況から逆転しての優勝。積み重ねた練習の成果が本番で充分発揮された。出場選手は以下の通り。
 菅原幸福・菅原崇将・板垣雄一・板垣春介・板垣圭介・板垣幸規・板垣伸吾・藤原誠・板垣拓海・菅原 茂
 皆さん御苦労さまでした。

表 彰 (敬称略)

岩手県老人クラブ連合会長表彰 菅原靖夫

自衛隊員による防災研修会が行われる

去る11月6日大瀬川振興センターで生涯学習・スポーツ推進委員会(熊谷恭一委員長)主催の防災研修会が22名の参加で行われた。講師として自衛隊岩手地方協力本部北上地区事務所より下田所長と菊池広報官を招き「自衛隊の災害派遣活動」について講話を頂いた。講話によると、近年自然災害が各地で増えており、豪雨・台風等による局部地域の災害も頻発している。地震は明治以前と比較しても平成には倍近く発生し被害も大きい。中でも平成6年に発生した「三陸はるか沖地震」の頃から自衛隊に災害派遣要請での出動が増え、下田所長も平成7年の「阪神・淡路大震災」では灘区・西宮市で災害対応にあたった。また、海外派遣により「東ティモール」での災害復旧作業の様子も説明して頂いた。過去には災害対応は主に陸上自衛隊が行っていたが、現在は災害派遣要請があれば陸海空が統合してすぐに出動できる体制が整っているとのこと。また、自衛隊は「自己完結組織」として自分達の衣食住から医療までを完結するため多くの職種を網羅するとともに、日頃からあらゆる災害を想定して救助や復旧の訓練を行っていることもうかがい知ることができた。

ほかにも、自衛隊員は常時衣服や持ち物の整理整頓と確認をし、緊急出動要請があれば即対応できる様に心がけているとのことだった。「花巻市は災害警報には機敏に対応していますが、皆さんも災害はいつ来るかわかりませんので、防災アプリの活用や、非常持ち出し袋の用意、家族の連絡方法等を話し合ってください」と締めくくられた。

ゲートボールで金メダルが授与される

10月21日に菅原サツさん(中ノ家)に花巻市ゲートボール協会石鳥谷支部から感謝状と金メダルが贈られた。サツさんは30年近く前からゲートボールを続けており、今回スパーク石鳥谷で行われた大会の席上での贈呈だった。90歳の女性はサツさんただ一人だけだった。感謝状には「高齢者の模範となり、これからも健康に留意され競技を続け後進の育成をお願い致します」と書かれていた。金メダルは直径6センチもあるずしりと重い物であった。サツさんは「これまで続けられたのはいつも車で送迎してくれる人がいたからです」と感謝していた。

“わたかふえ”開かれる

「女性が気軽に参加できる場を作りたい」そんな初の試みで“わたかふえ”が10月29日、大瀬川振興センターにオープンし大瀬川地区の女性15人が参加した。普段集まる機会の少ない女性たちに、情報交換や日頃感じていることなどを共有する場を作り、地域の活性化に繋げていきたいと、大瀬川活性化会議(熊谷秀夫会長)が花巻市の地域づくりサポート事業を活用したもの。お茶を飲みながら、構えることなく楽しむことがモットー。女性なら誰でも参加できる。3回シリーズで次回は11月26日に開催する。